

# 令和8年産 てんたかく栽培こよみ

●射水市農業技術者協議会  
●射水市 ●JA いみず野  
●富山県高岡農林振興センター  
●高岡地域農業共済センター  
●全農とやま

## 目標収量構成要素

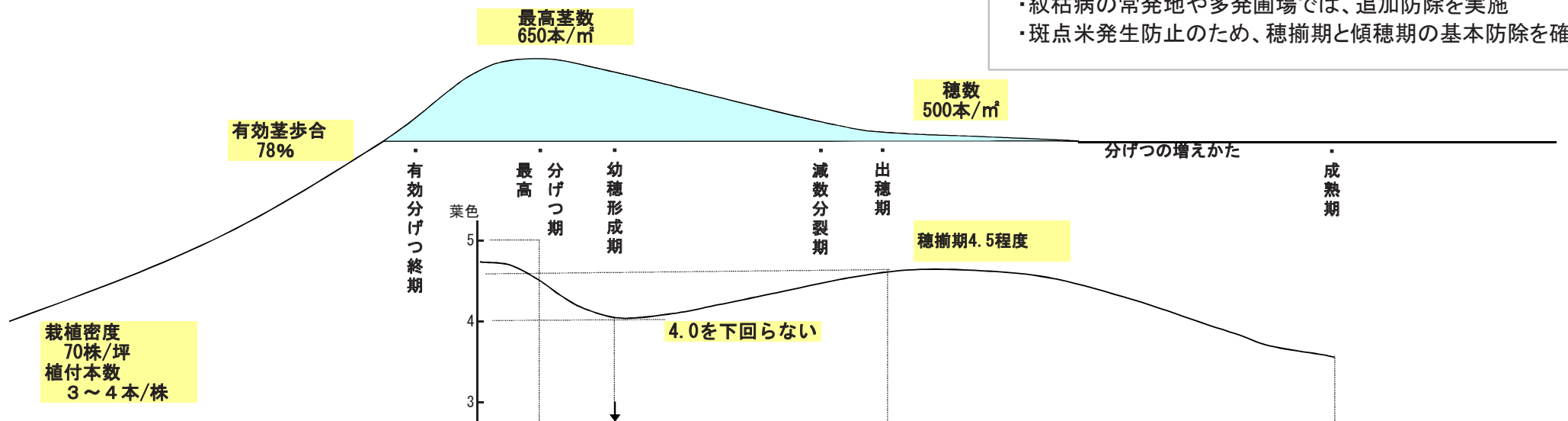
収量構成	目標
10a当たり収量	600kg
m <sup>2</sup> 当たり穂数	500本
一穂粒数	60粒
m <sup>2</sup> 当たり粒数	30,000粒
登熟歩合	85%
玄米千粒重	23.5g

## 収量確保の栽培のポイント ～m<sup>2</sup>当たり粒数30,000粒へ誘導～

- ・田植時期の目安は、5月初旬
- ・施肥量は、地力に応じて過剰とならないように基準量を遵守
- ・植付株数は、坪当たり70株とし、良質の茎を早期に確保
- ・幼穂形成期頃の葉色は、4.0を下回らないように間断かん水を徹底
- ・紋枯病の常発地や多発圃場では、追加防除を実施
- ・斑点米発生防止のため、穂揃期と傾穂期の基本防除を確実に実施

## 「エコ早生専用」施肥量の目安

前作	減肥	土壌区分	施肥量 (kg/10a)
水稻あと	—	粘質土	30～35
		壤質・砂質土	32～37
大豆あと 野菜あと	水稻あとの 35%減	粘質土	19～22
		壤質・砂質土	21～24
大麦あと	水稻あとの 25%減	粘質土	22～25
		壤質・砂質土	24～27



月 日	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
	4/10	5/2	6/1 6/8 6/12	6/24 7/14	8/18	
生育期	育苗期	田植期	活着期	有効分げつ期	無効分げつ期	幼穂形成期
水管理		やや深水	浅水管理	入水停止→溝掘り 中干し	間断かん水	出穂後20日間は湛水管理 間断かん水 (落水を急がないように)
栽培管理のポイント	<ul style="list-style-type: none"><li>・畦塗り</li><li>・ケイ酸質資材の施用、15cm以上の深耕</li><li>・十分に浸種して芽出しを確実にを行う</li><li>・播種量は乾粃一箱当たり120g</li><li>・紋枯剤を含む育苗箱薬剤を施薬</li><li>・育苗ハウスは25℃以下になるよう管理する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・田植時期の目安は5月初旬</li><li>・施肥量は基準量を守る</li><li>・坪当たり70株植え、良質の茎を早く確保する</li><li>・田植後はやや深水として活着を早める</li><li>・植付本数3～4本、3cmの深さに植える</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活着後は浅水管理として分けつの発生を促す</li><li>・田植後はやや深水として活着を早める</li><li>・田植後1か月を目安に中干しを開始し、根の活力を高め、無駄な茎を抑える</li><li>・田植後1か月までに溝掘りを行う</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・スムーズな収穫作業に向けて地固めを行う</li><li>・中干し後は、幼穂形成期まで間断かん水を行い、</li><li>・幼穂形成期の葉色は4.0～4.5に誘導</li><li>・幼穂形成期は、出穂前7日頃の葉色が淡い場合は、追肥3号を7kg/10a程度追肥する</li><li>・（4.0を下回らない）</li><li>・幼穂形成期以降は、飽水管理を行う</li><li>・紋枯病の随時防除（出穂14日前頃）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・穂揃期の葉色を4.5に誘導する</li><li>・基本防除1回目 穂揃期</li><li>・基本防除2回目 傾穂期</li><li>・（1回目から10日以上あけない）</li><li>・出穂後20日間は湛水状態を保つ</li><li>・刈取り予定日の5～7日前まで間断かん水する</li><li>・フェーン時は事前に入水する</li><li>・刈り遅れによる胴割米発生防止</li><li>・粃の黄化率85～90%程度で適期に刈取り、</li><li>・適正な乾燥速度と仕上水分14.5～15.0%</li><li>・を厳守し、胴割米や過乾燥米の発生を防止</li><li>・1.9mmのふるいで選別</li><li>・稲わらの腐熟促進のため、秋耕しを行い</li><li>・必ず排水溝を設置する</li><li>・ひこばえは結実前に耕起し、漏生株を軽減</li></ul>	
育苗箱薬剤はブーンレパード箱粒剤 密苗の場合は、1kg/10aとなるように50～100g/箱で調整		通常の育苗 1箱当たり50g	密苗 1kg/10a (1箱当たり50～100g)	雑草地や畦畔の草刈りを行い斑点米カメムシ類の生息数を減らす		